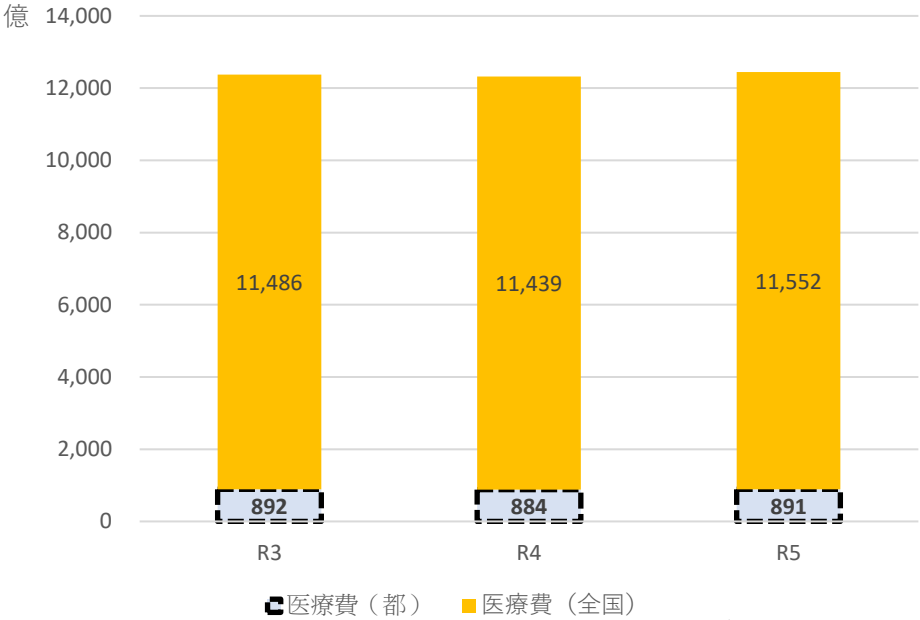


糖尿病の現状

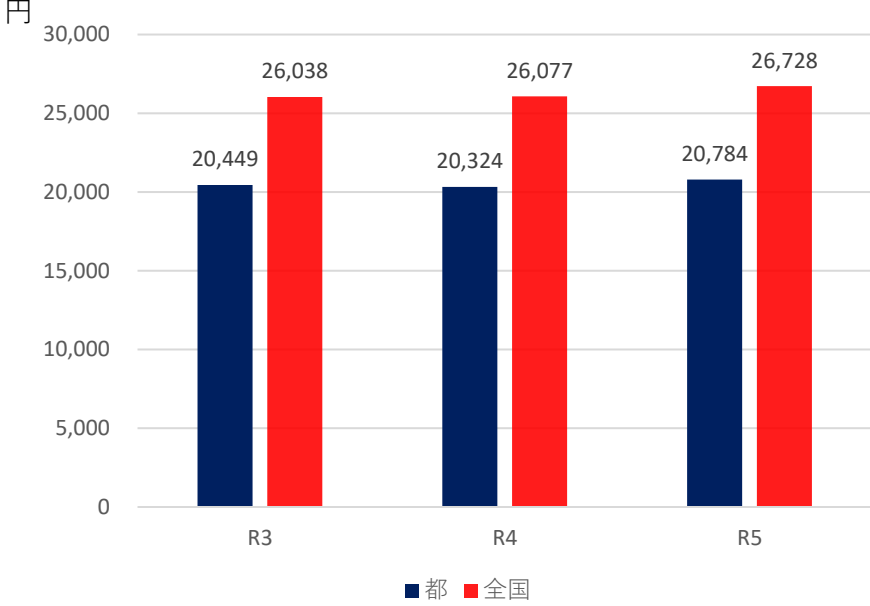
令和5年度糖尿病の医療費（国保及び後期）

○令和5年度の糖尿病医療費は、国民健康保険・後期高齢者医療の合計で約891億円（うち国保 約338億円）である。
○一人当たりでみると、都の医療費は全国を下回っている。

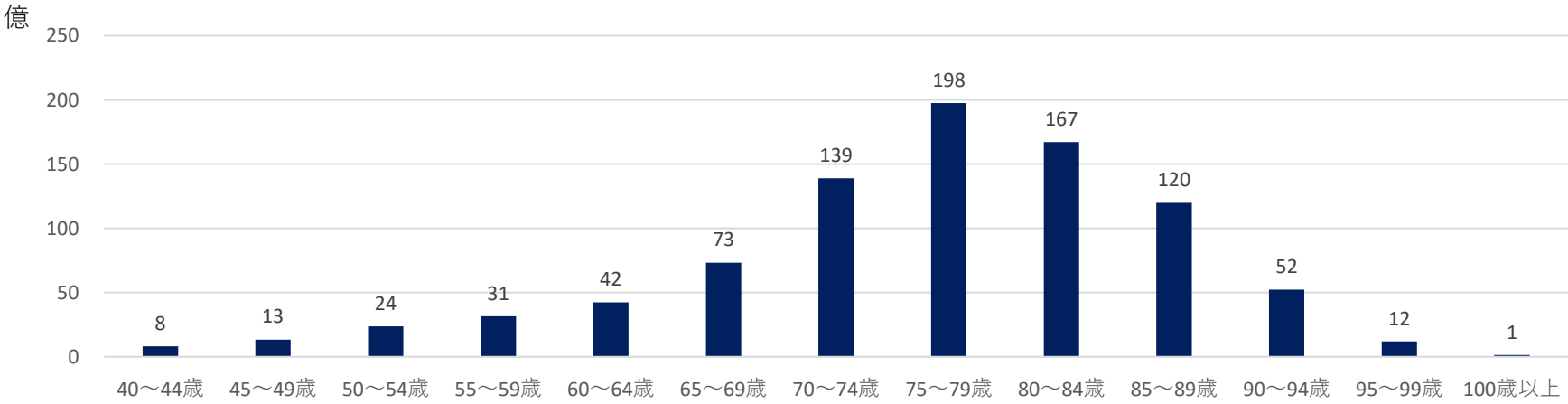
（総額【全年齢】）



（一人当たり【全年齢】）



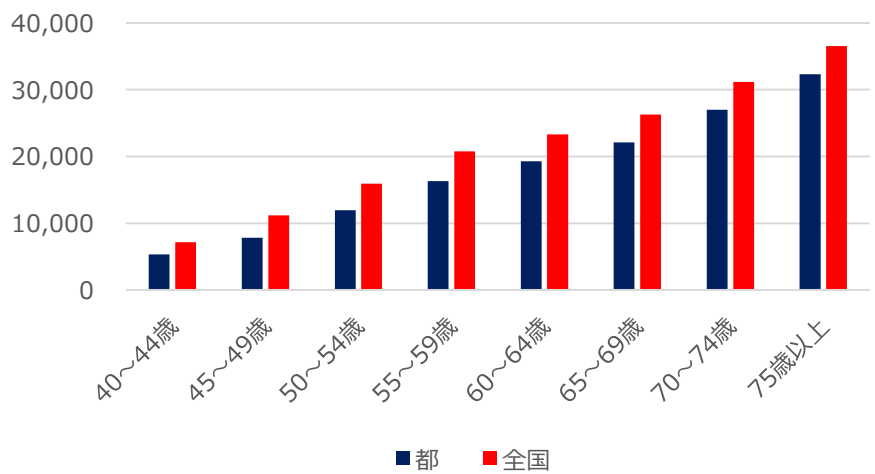
（年齢階級別【40歳以上】）



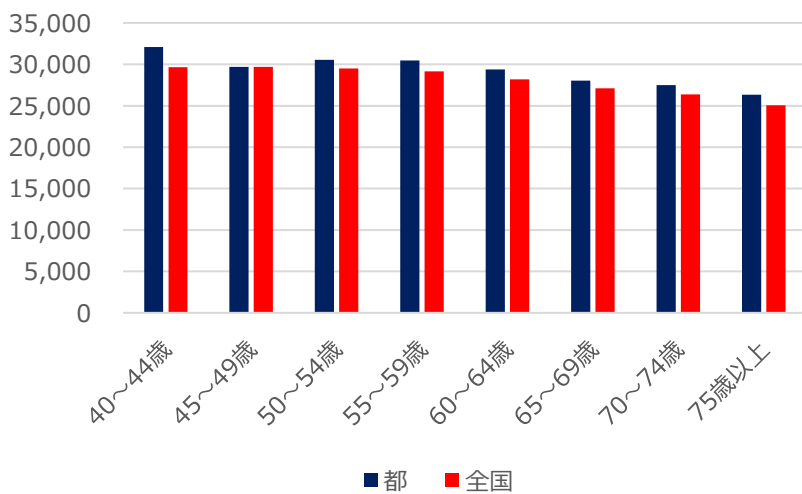
令和5年度糖尿病の医療費等（国保及び後期、診療種別計）

- 糖尿病の一人当たり医療費、受診率は、高齢になるにつれて増加するが、一日当たり医療費は、高齢になるにつれて減少する。
- 一件当たり日数は年齢による差異は少ない。
- 全国と都の医療費等を比較すると、一日当たり医療費のみ全ての年代で全国を上回っている。

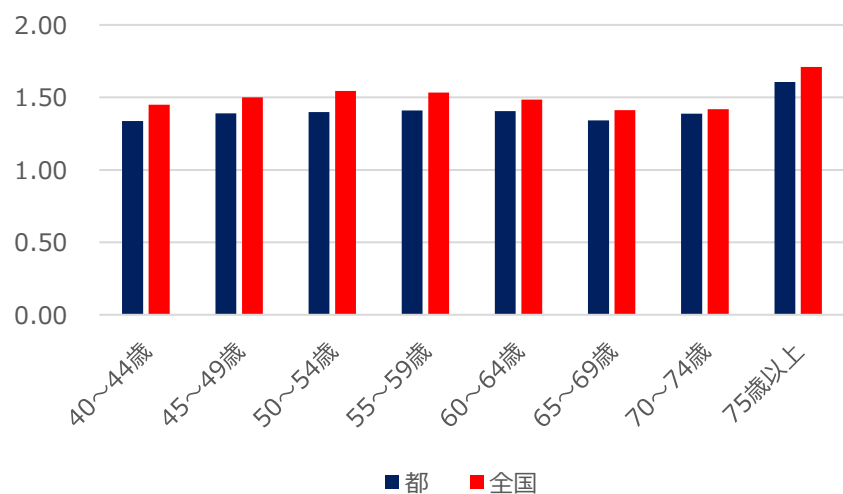
一人当たり医療費（円）



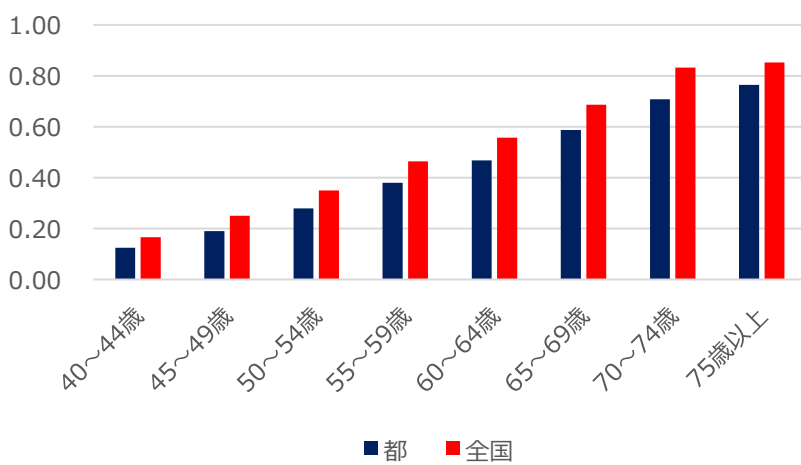
一日当たり医療費（円）



一件当たり日数（日）



受診率（件/人）

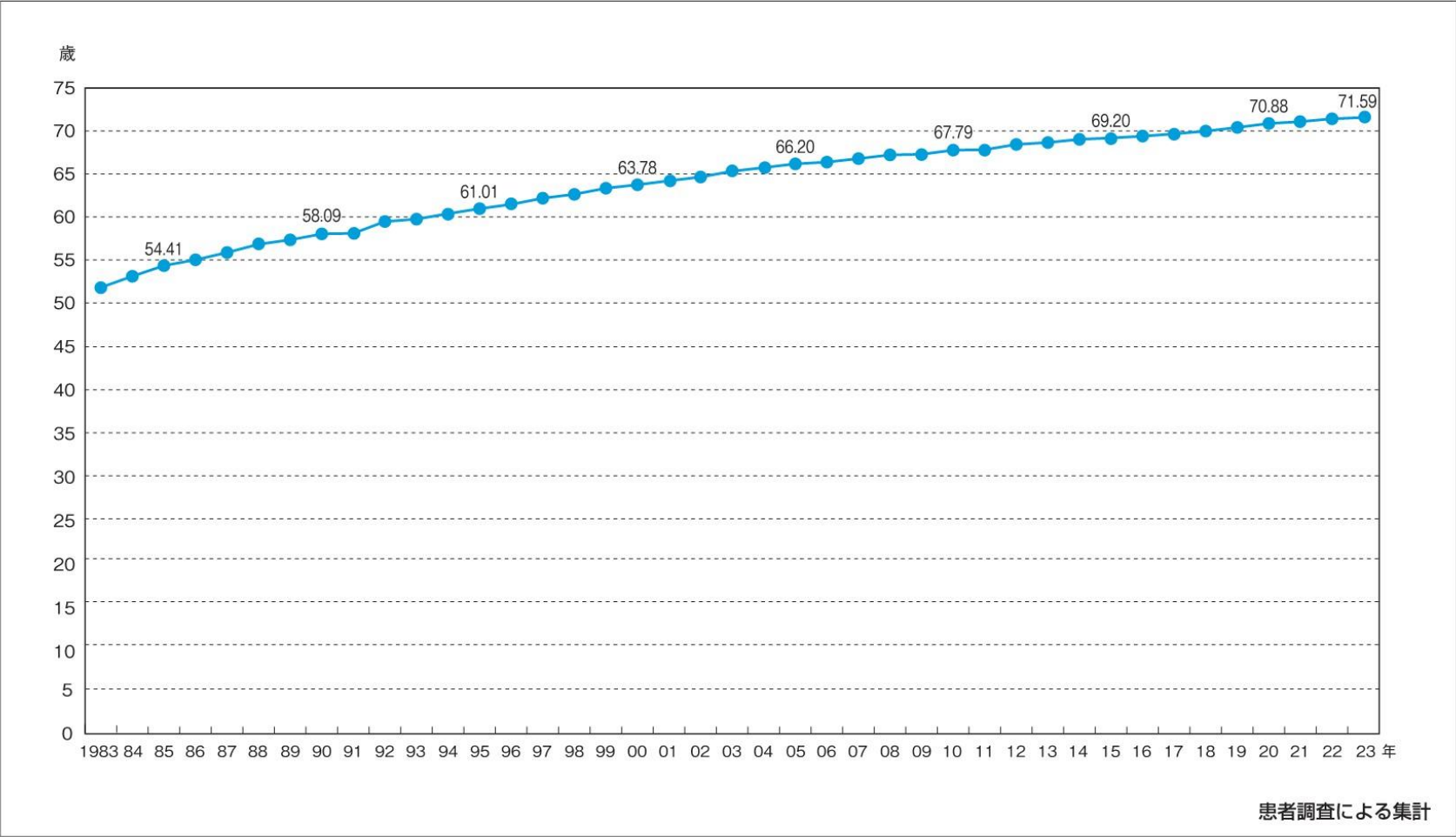


糖尿病性腎症の現状

透析導入患者の平均年齢の推移【全国】

○透析導入患者の平均年齢は年々上昇しており、2023年末現在、71.59歳である。

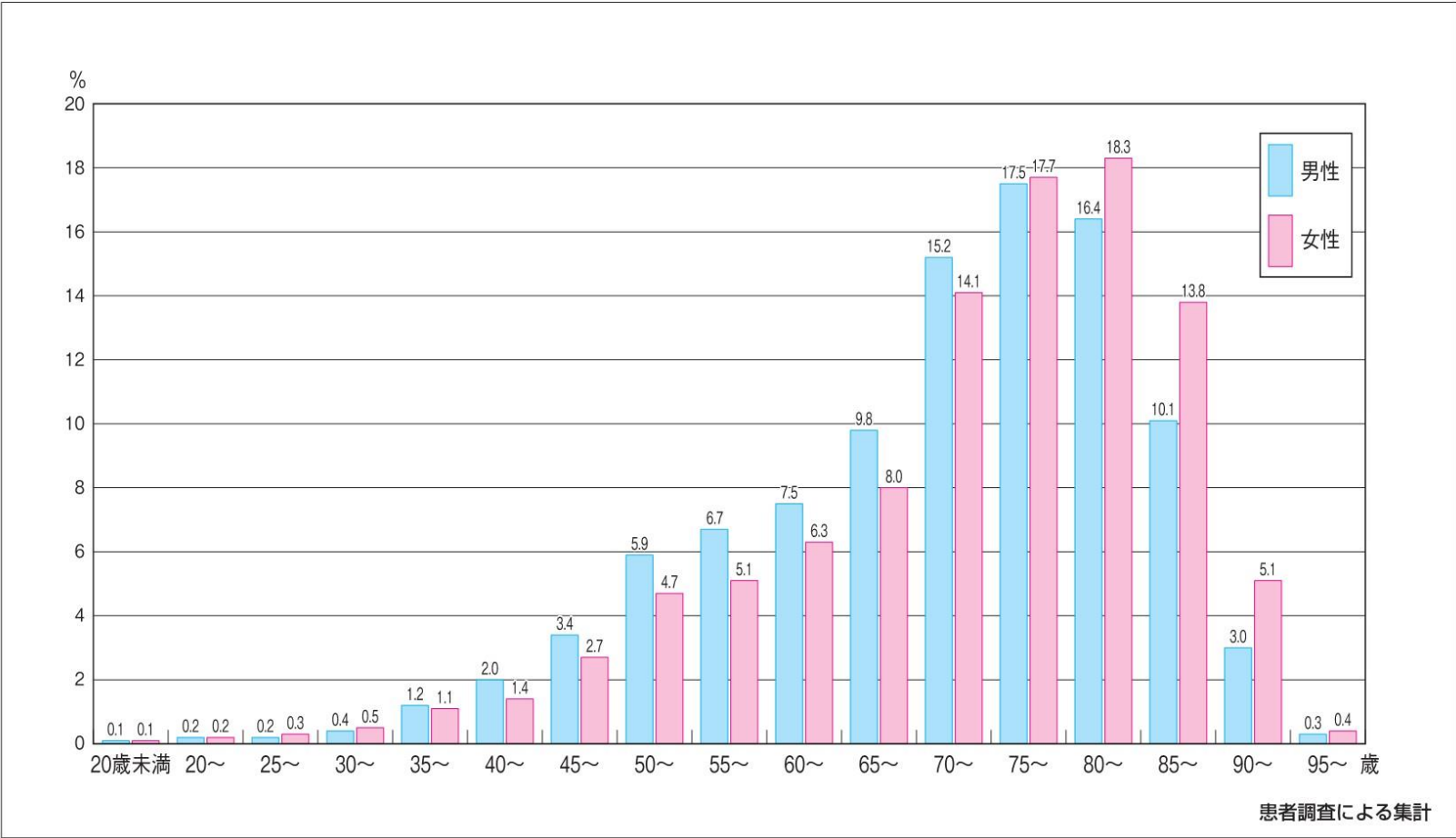
(15) 導入患者 平均年齢の推移, 1983-2023年 (図15)



一般社団法人日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況 (2023年12月31日現在)」

○透析導入患者のうち、最も割合が高い年齢層は、男性が75 ～ 79 歳で、女性は80 ～ 84 歳である。

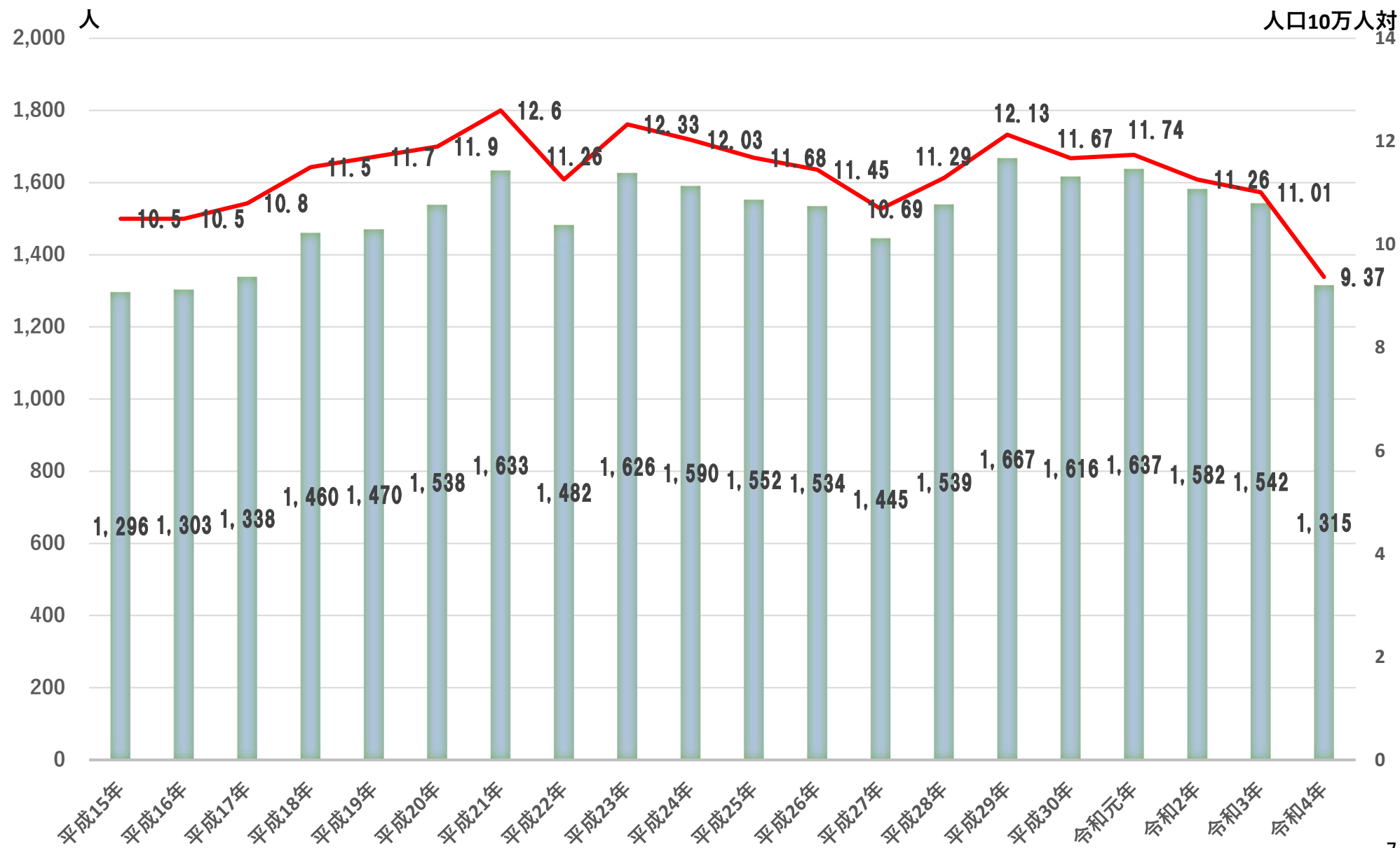
(14) 導入患者 年齢と性別, 2023年 (図14)



一般社団法人日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況（2023年12月31日現在）」

東京都の糖尿病腎症による人工透析新規導入率

○都における人工透析新規導入率は、減少傾向にある。



出典：わが国の慢性透析療法の現況（2023 年 12 月 31 日現在）（日本透析医学会）

導入患者原疾患と性別【全国】

○透析導入原疾患は、依然として、男性・女性共に糖尿病性腎症による割合が最も高い。

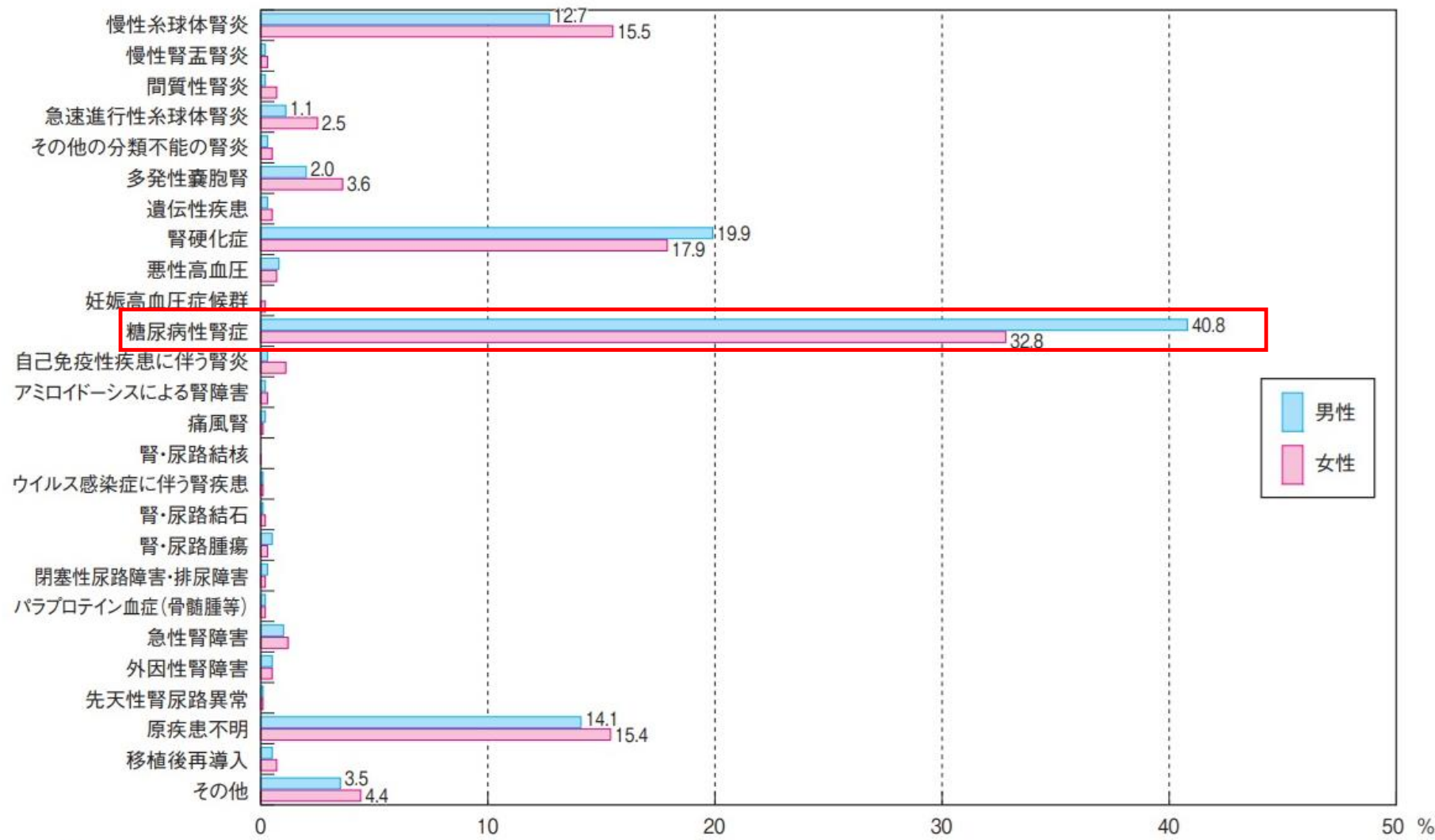
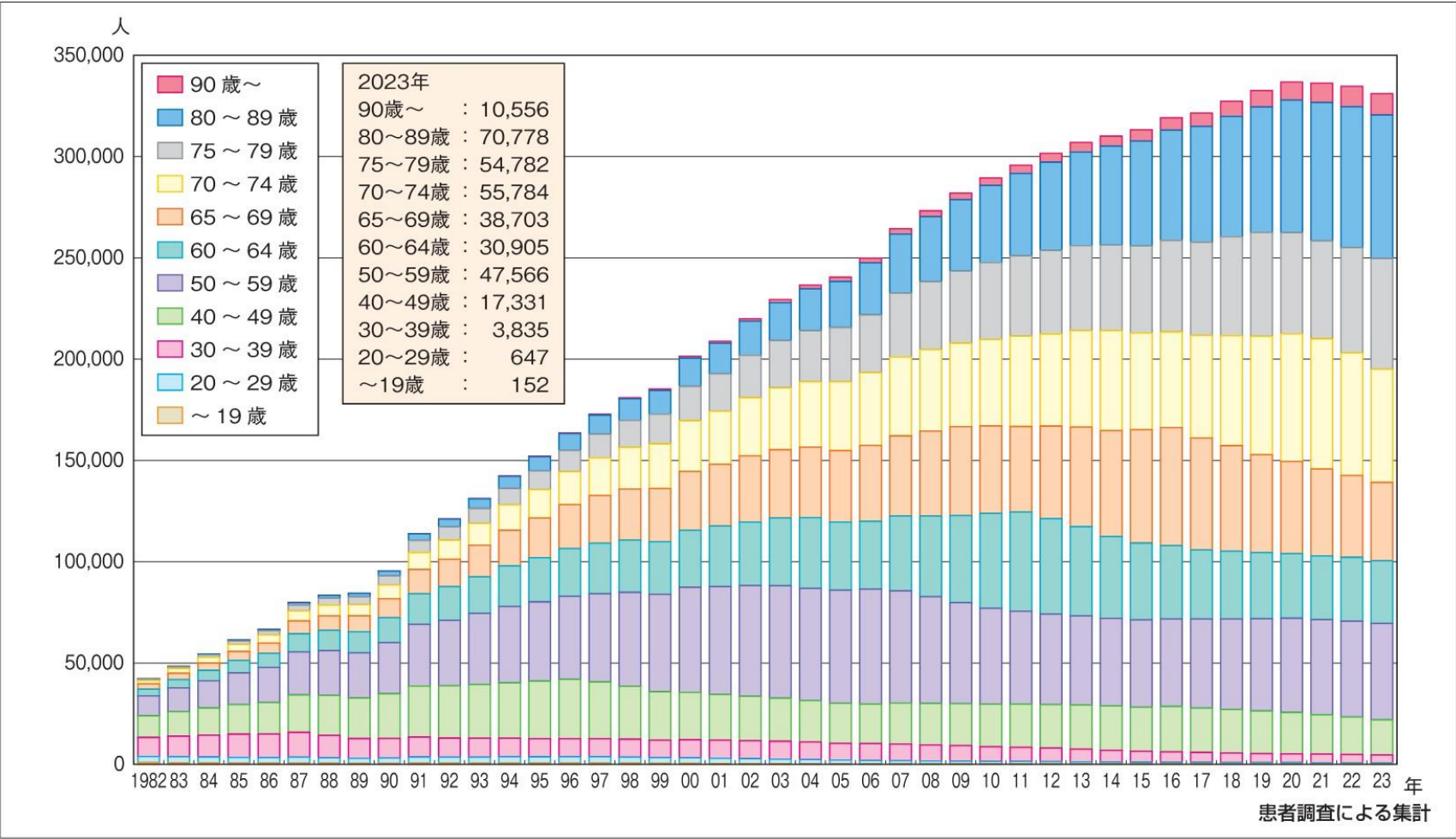


図 16 導入患者 原疾患と性別, 2023 (患者調査による集計)

○透析患者を年齢層別にみると、75歳未満の数は減少傾向だが、75歳以上の数は増加傾向である。

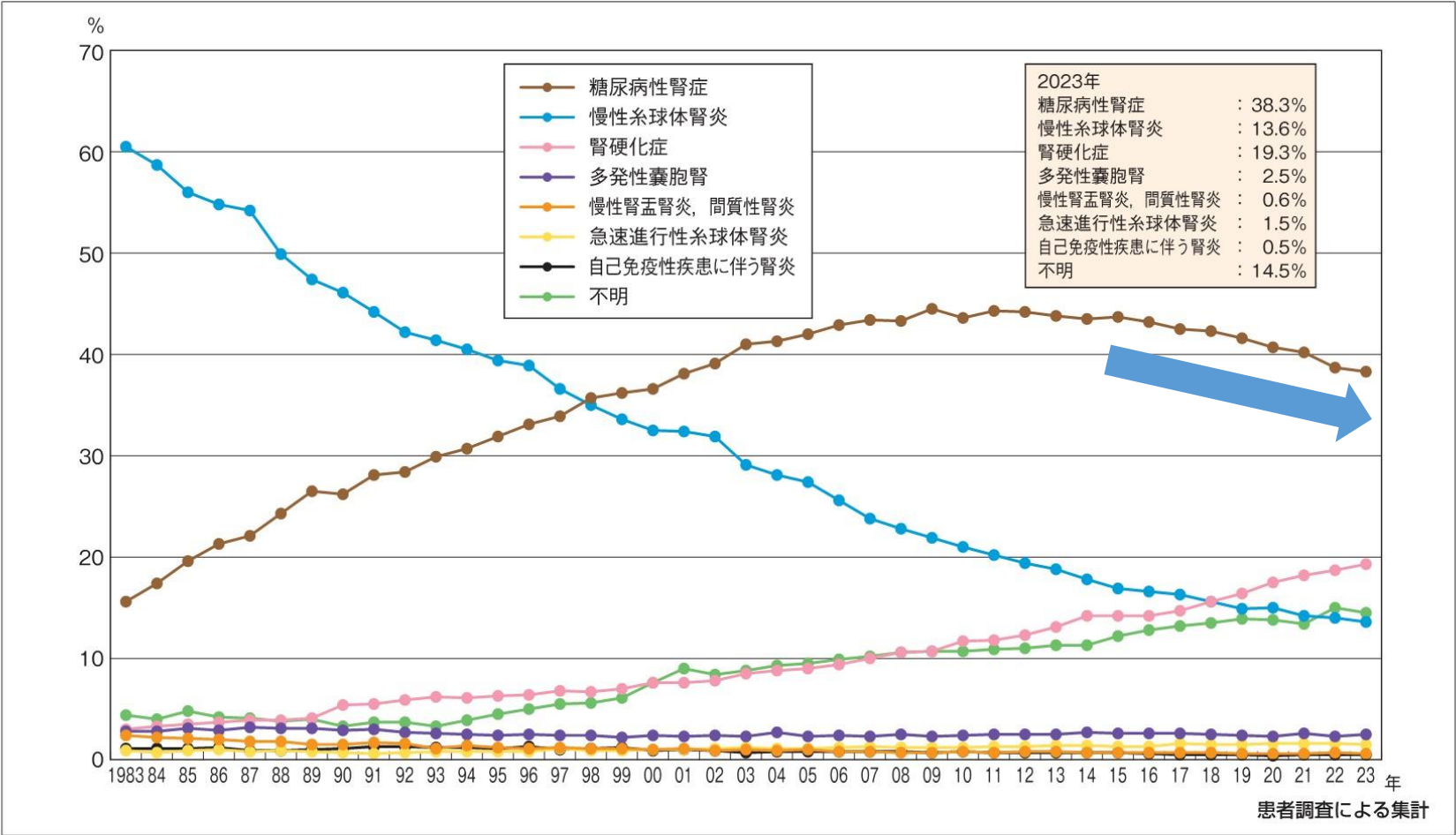
(6) 慢性透析患者 年齢分布の推移, 1982-2023年 (図6)



一般社団法人日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況 (2023年12月31日現在)」

○糖尿病性腎症を主要原疾患とする患者の割合は、近年は減少傾向。

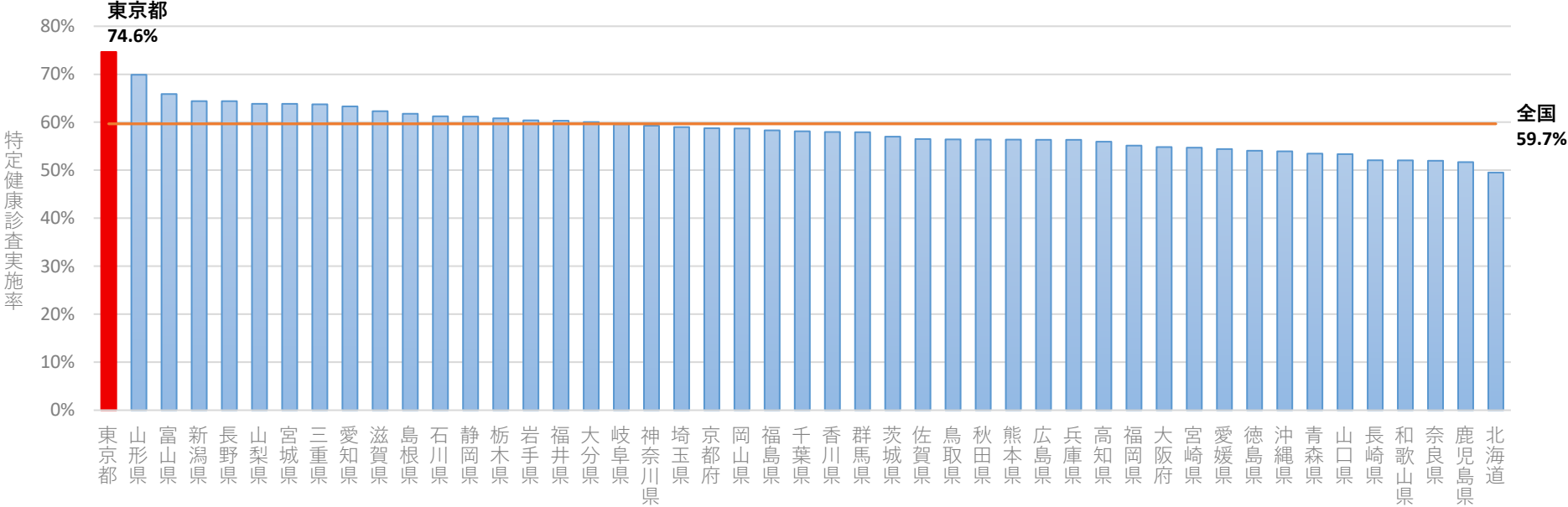
(17) 導入患者 原疾患割合の推移, 1983-2023年 (図17)



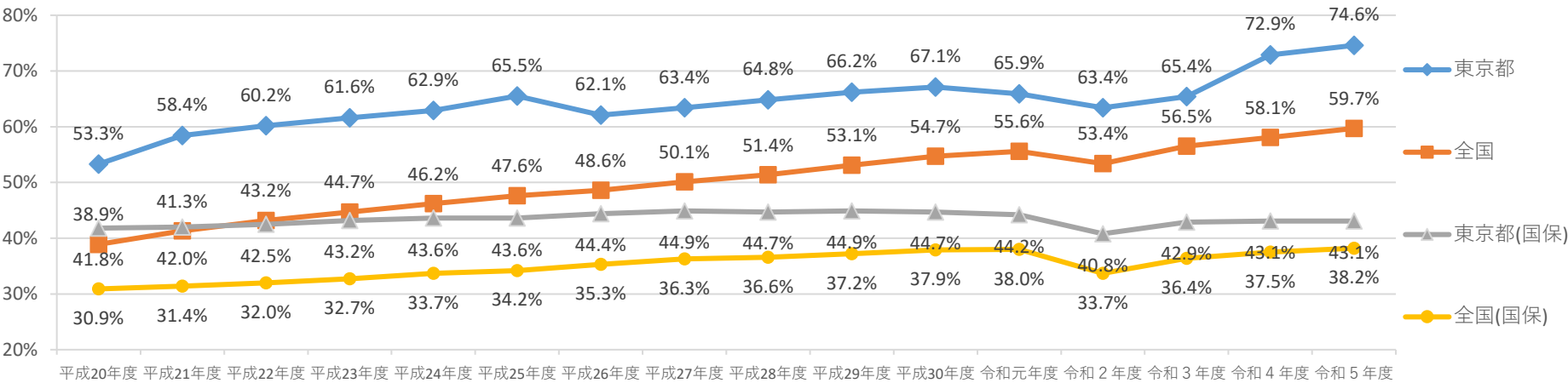
一般社団法人日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況（2023年12月31日現在）」

特定健康診査・特定保健指導

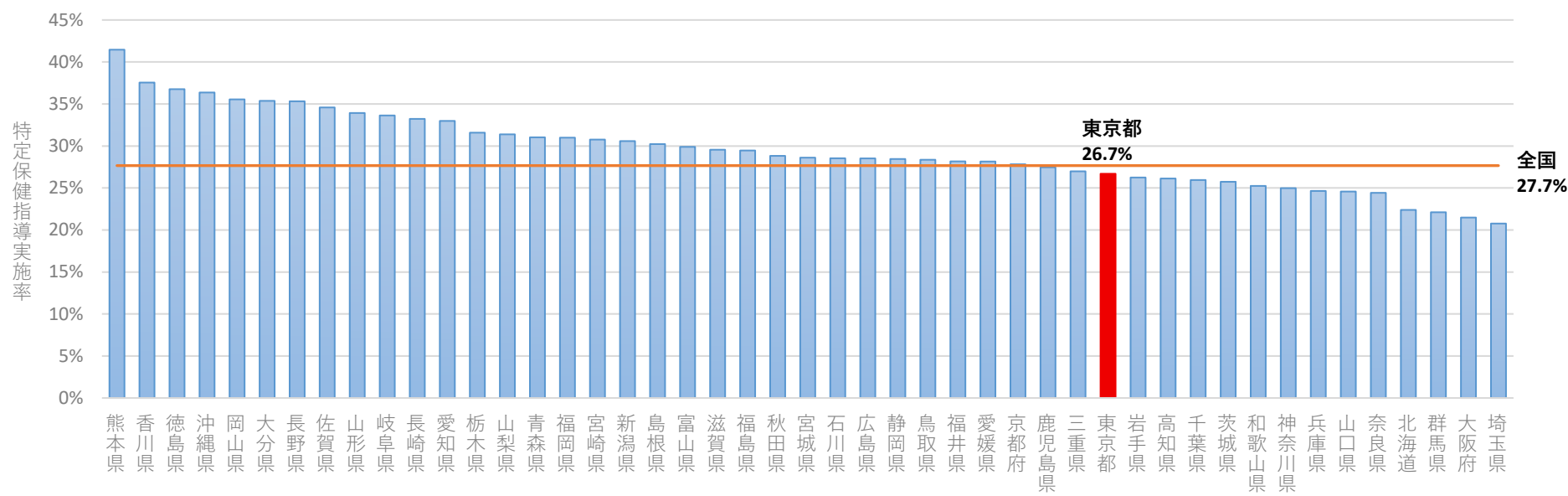
令和 5 年度 都道府県別 特定健康診査実施率



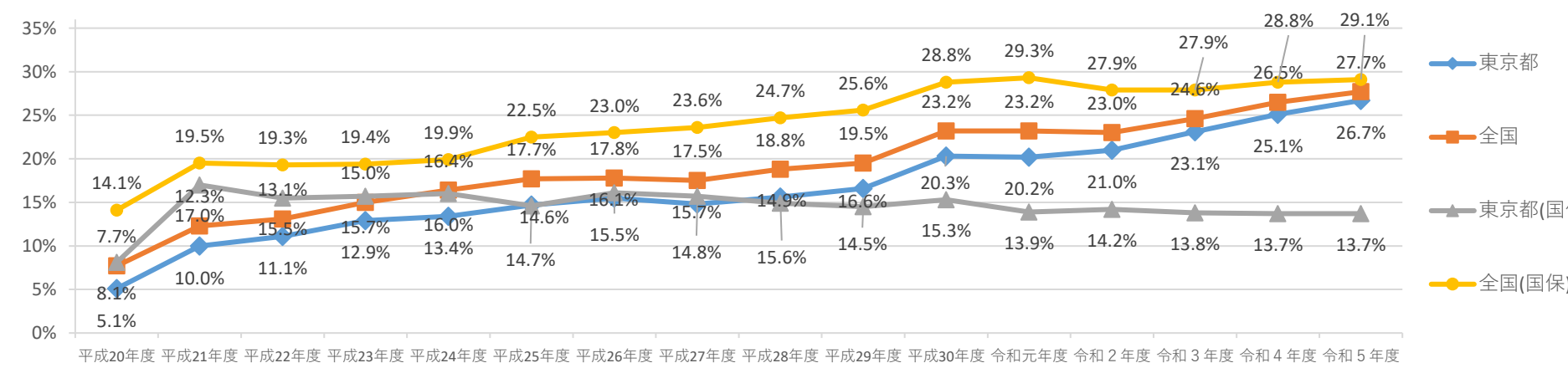
特定健康診査実施率の推移



令和5年度 都道府県別 特定保健指導実施率



特定保健指導実施率の推移



都内区市町村別特定健康診査・特定保健指導実施状況（令和5年度）

